

ダイバーシティを尊重する地域づくりを目指して

# いちやり場通信

September 2023  
No.88



## りゅうぎん国際化振興財団の 助成事業として採択されました

目録を贈呈された宮城理事長（後列左から2番目）

OIHF が実施する「在住外国人の生活支援事業」が、りゅうぎん国際化振興財団の助成事業として採択されました。

OIHF は 2019 年度より「在住外国人のための法律・生活相談」窓口を開設し、外国人の国籍や在留資格に関わらず、入管、雇用、医療、家庭、相続などのような相談にも応じています。窓口開設以降、相談件数が増加していることもさることながら、日本の法改正や在住外国人の高齢化、定住化など社会状況は日を追うごとに変化し、それらに伴い相談の内容が多様化、複雑化しており、これに対応する職員のスキルアップが欠かせません。

また OIHF では、厚生労働省沖縄労働局と福岡出入

国在留管理局那覇支局との協定を基に、新たなプラットフォーム「多文化共生推進アライアンス認証制度」を展開しています。本プラットフォームは、外国人・雇用者双方に対する関連法令遵守の啓発だけでなく、外国人の労働・生活環境の改善に責任を持つ団体や企業を認証し、また求職する外国人のために「無料職業紹介事業」を展開することで県内雇用の需給の適正化を図ることを目的に運営しています（7ページに関連記事）。

本助成金を有効活用することにより、沖縄県が地域として外国人材を適正に受け入れ、共生社会の実現を図り、日本人と外国人が安全に安心して暮らすことができる社会の実現に寄与できるよう努力して参ります。



公益財団法人 沖縄県国際交流・人材育成財団

Okinawa International Exchange & Human Resources Development Foundation (OIHF)

〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐4-2-16

HP : <https://kokusai.oihf.or.jp>

TEL : 098-942-9215 FAX : 098-942-9220

FB : <https://www.facebook.com/oihf60>

# 日本語教室

OIHFでは、日本語学習を必要とする県内に在住する外国人等を対象に、日本語教室を実施しています。**受講料は無料**です。

詳細はこちら<https://kokusai.oihf.or.jp/project/yomikaki/>

## 1 日本語基礎対面クラス

金曜日の午後7時から9時まで実施しています。定員に限りがありますので、参加ご希望の方はお早めにお問い合わせください。

## 2 個別オンラインクラス

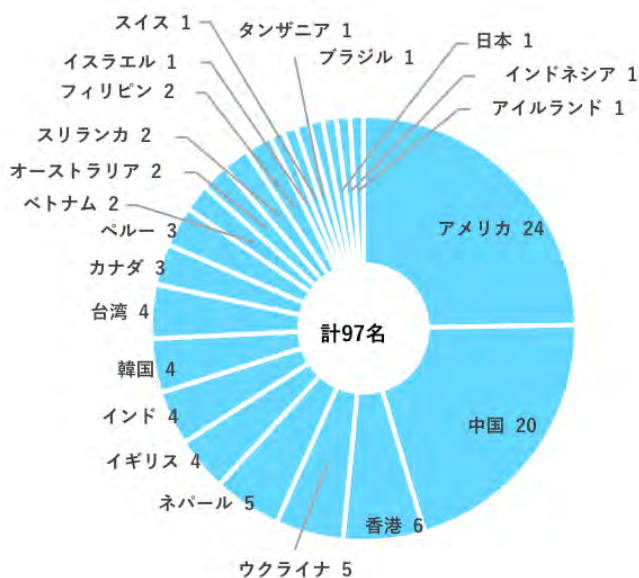
日本語教師の資格を持つサポーターによる1回40分の個別クラスです。学習したい内容をリクエストできます。令和5年4～6月は、299回のクラスを実施しました。

## 3 ビジネス日本語

在住外国人の皆さんが日本企業で働くことを想定し、ビジネスマナーや電話対応、メールの書き方など実践的な日本語を学びます。

- ビジネス日本語Ⅰ…職場でのビジネスコミュニケーション
- ビジネス日本語Ⅱ…職場でのビジネスライティング

▼令和5年4月～6月の学習者の内訳(国籍別)

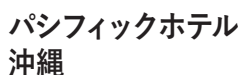
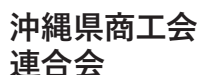


▼令和5年4月～6月の学習者の内訳(在留資格別)



**日本語学習サポーター募集中** 日本語学習をサポートしていただける方を募集しています。  
 詳細はこちら→ <https://kokusai.oihf.or.jp/project/yomikaki/>

### OIHF法人賛助会員様



(順不同)

# 日本語教室受講者インタビュー

- ① いつ日本に来ましたか。
- ② いつから日本語を勉強していますか。
- ③ どうして日本語を勉強していますか。
- ④ OIHF での日本語の勉強はhowですか。
- ⑤ 日本語が上手になったら、何がしたいですか。

interview



## 基礎対面クラス

ソ コン  
SU QIAN さん  
(中国出身)



- ① 2023年6月11日
- ② 今年6月から独学
- ③ 生活で必要だから
- ④ 先生の教え方が優しいです。
- ⑤ 就職したいです。



## 個別オンラインクラス

Melissa Bennight さん  
(アメリカ出身)



- ① 2021年11月に沖縄に来ました。その前に愛知県名古屋市に3年、島根県松江市に1年住んでいました。
- ② 2010年から島根県松江市で日本語の勉強を始めました。それ以来日本語を勉強していて、時々独学で勉強しています。
- ③ 夫が翻訳・通訳の仕事をしているため、2010年から断続的に日本に住んでいます。日本で快適に生活し、友人や近所の人たちとコミュニケーションをとるために日本語を勉強しています。
- ④ OIHFの先生方はフレンドリーで親切です。新しいボキャブラリーを学んだり、文法の上達の手助けをしてくれます。
- ⑤ これからも家族と一緒に日本で暮らしたいです。



## 基礎対面クラス

Pyvovarchuk さん  
(ウクライナ出身)



- ① 2022年9月
- ② 2022年4月から
- ③ 仕事で必要だからです。
- ④ 漢字を読んだり書いたりするのは難しいですが、友達ができて楽しいです。
- ⑤ 日本語の新聞を簡単に読めるようになったり、たくさんのニュースを知ることができるようになりたいです。



## 個別オンラインクラス

Paola Butler-Zanetti さん  
(Lugano, Switzerland  
/スイス出身)



- ① 2022年04月
- ② 2022年05月から
- ③ 日本語は美しい言語です。
- ④ 日本語は難しいですが、たのしくておもしろいです。
- ⑤ 日本語で日本人と話したいです!



## ビジネスクラス

ティケツ  
鄭潔(ジェン・ジェ)さん  
(中国・福建省アモイ  
(廈門)市出身)



- ① 2023年4月
- ② 2008年9月
- ③ 日本語をビジネスレベルまで上達させたいです。
- ④ いつも新しい知識が勉強できて、毎回の授業を楽しみにしています。
- ⑤ 将来日系企業に転職したいです。

# 第1回 日本語学習サポーター育成ウェビナー

開催日時 2023年7月8日(土)9:30-11:30

講師 沖縄国際大学 総合文化学部 英米言語文化学科 教授 尚 真貴子 氏

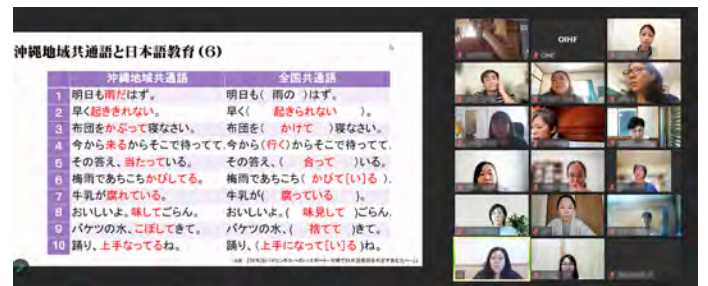
去る7月8日に「日本語学習サポーター育成ウェビナー」を開催しました。沖縄国際大学 総合文化学部 英米言語文化学科 教授の尚氏を講師としてお招きし、『外国人の目を通して「ニホンゴ」を再発見!』をテーマに講演は進みました。

講師が実際に日本語を教える時に使う小道具の紹介や沖縄地域共通語と全国共通語の違い、冷える/冷めるの違いといった普段私たちが何気なく使っている日本語に視点をあてて講演は進みました。ウェビナー全体を通して講師は「学習者が実践で必要としている日本語はどんなものか?それはどんな風に教えたなら、学習者にとって分かりやすいか?」と学習者視点を想像しながら教えることの重要性、日本語を教える楽しさについて説かれました。参加者たちは普段使っている日本語の奥深さ、それを適切に外国人に教えることの楽しさ、難しさを改めて理解している様子でした。

ウェビナー内ではグループワークがあり、講師が提示したテーマに沿ってそれぞれのグループでディスカッションを実施しました。参加者の中には日本語教育に長年携わっている方や未経験の方もいましたが、グループワークでは積極的にお互いのアイデアを共有していました。講座終了後には「グループワークがとても有意義で、自分とは違うアイデアを聞いたことが新鮮で楽しかった」「実際に日本語教師をしている方の経験談を聞いてこれから自分はどんな日本語教師を目指すか考

えることができた」「教える」という現場を通して、「教える」を超えて学習者をサポートするような、そして学校や地域と協力して日本語教育を盛り上げられるような日本語教師になりたいと思った。」という声が寄せられました。

OIHFでは今後もこのようなウェビナーを開催していきたいと思えます。「2023年度第2回日本語学習サポーター育成ウェビナー」も開催予定ですので、ぜひご参加ください。



## 【災害時に役立つやさしい日本語セミナーを開催しました】

去る8月19日(土)に沖縄産業支援センターで、「災害時に役立つやさしい日本語セミナー」を開催し、21名が参加しました。セミナーでは、沖縄県内の在住外国人の状況を始め、災害時の各フェーズにどのような情報が必要とされているかを確認し、がれき撤去や熱中症に関する注意等「生活避難期」に発信される内容を実際に「やさしい日本語化」に取り組みました。

常日頃、コミュニケーションで使われている言葉というのは「伝えたい」という気持ちと「それを受け止める、理解しようとする」気持ちのやり取りだと思っています。が、非常時は、すぐにでもやり取りする必要があり、その時に「受け止める、理解しようとする」という余裕はない…そういう時こそ、やさしい日本語の出番であって、相互理解を図るのに(フェーズによってはある、ということをお学びました)役立つと思っています。

フェーズによって多言語で対応が必要という現実があるので、状況を見極め、必要な情報を、伝わりやすい言葉で柔軟に対応していくのが大事と改めて落とし込みました。

やさしい日本語としては、ただ平仮名だけを用いたり、ルビを付したりするのではなく、一文一文が長くなりすぎず、わかりやすい表現で表記することが重要だということがわかりました。また何を伝えたいかを明確にしつつ、伝えたいという想いをもって取り組むことが大切なのだと感じました。

今回の講座を通して、沖縄に住んでいる外国人の現状や直面する壁、やさしい日本語の活用や災害時に求められる対応などについて学ぶ事ができました。

これからますます在住外国人の増加が見込まれると思うので、少しずつやさしい日本語が習得できるようにしたいです。

OIHFでは、今後も定期的に本セミナーを開催することで、災害時のみならず平時においても「やさしい日本語」を活用することができることの理解を図り、外国人支援に寄与して参ります。

演習の様子①



演習の様子②



# 新たに医療通訳者として認定しました！

6月17日(土)から全5回による医療通訳養成講座を実施し24名が受講しました。また、全講座受講者を対象に、医療通訳者認定テスト(筆記テスト及び逐次通訳)を実施し、この度、中国語2名と英語4名の医療通訳者6名を認定しました。認定を受けた医療通訳者に今回の講座を受講しての感想や今後講座の受講を検討している方へのエールなどを寄稿いただきました。

英語

## 「言葉と文化の壁をこえる 支援を目指して」

富永 直美



医療通訳という職業の存在を知ったきっかけは、去年の夏、通院している病院の待合室での事でした。会計窓口で外国人患者さんに丁寧に説明している様子や、診察室から患者さんと出てくる医療通訳者の方々を何度か目にしました。それまでは、外国人が医療現場で抱える問題に全く気づきませんでした。支援が必要な人と支える人とのやりとりを目の当たりにしたことで、知らない世界が一気に広がりました。長年努力して培った英語力で人助けがしたい、新たな分野に挑戦してみたい、と言う気持ちが芽生えた瞬間でした。

その後、医療通訳について調べていくうちに徐々に興味・関心が深まり、専門知識を学べる講座やスクールを探し始めました。そして、辿り着いたのがOIHFの医療通訳者養成講座でした。しかし、講座の募集は既に締め切っており応募を断念せざるを得ませんでした。翌年の募集を見逃すまいと、スマホにリマインダーを設定。今年の春、待ちに待った参加者募集が始まり、迷わず応募しました。

各言語の定員数は20名程と狭き門でしたが、無事書類選考を通過し講座に参加できることになりました。幅広い年齢層と様々な語学歴を持った方々の集いで第1回目の講座がよいよスタート。講座の流れや認定医療通訳者になる為の難易度について、OIHF職員の方々による簡潔明瞭な説明があり、一瞬教室が騒めいたのを覚えています。短期間で膨大な量の暗記が求められる講座内容に圧倒され、最後までやり遂げられるのか不安になりましたが、それと同時に、「2次テスト合格」の文字が頭に浮かびました。

その日から2ヶ月間、出勤前の1時間と帰宅後夜遅くまで勉強することが日課になり、寝不足が続いたものの、不思議と医療通

訳の学習が苦にならず、わかればわかるほど楽しくなり無我夢中で勉強するようになりました。学習内容は様々な医療場面を想定したロールプレイに加え、「正確な通訳の為のスキル」「日本の医療機関」「基本的な医学知識」「異文化理解」「医療通訳者倫理規定」「通訳の形式」「医療通訳の役割」など多岐にわたりました。これらを頭の中で分野別に整理し、毎日コツコツ覚え、反復練習を継続して1次テストに挑みました。

1次テスト終了後、合否の結果が届く前に2次テスト対策に取り組みました。現場経験豊富な講師の方から教わった、テキストでは学べない医療通訳を行う際の注意点や心得を思い出しながら、1次テストを通過したクラスメイトとロールプレイの練習をしました。お互いに客観的なアドバイスをしたり、励ましあったりすることで、試験当日までモチベーションを保てることができました。また、2次テストで使用する単語帳を作成したり、病名を医学書で調べ病状について理解を深めたり、図書館へ足を運んで調べ物をしたりと、勉強漬けの日々を過ごしました。そして遂に、努力の甲斐あって、講座初日目標にした「2次テスト合格」を達成することができました。

医療通訳は一般の通訳とは異なり、普段の生活では使用しないような専門用語や医学的な内容を患者さんに伝えなければいけません。患者さんと医療従事者のコミュニケーションをサポートするためには、語学力に加え日本内外の医療制度や異文化の価値観を理解する必要があります。医学知識が全く無かった私にとって、この短期集中型講座は難しい挑戦でしたが、視野が広がり自分自身が大きく成長できたと実感しています。また、同じ目標に向かって勉強してきた受講者の方々と有意義な時間を過ごせたことは、とても貴重な体験でした。講座で学んだ知識とスキルを維持し、更に技術を磨くために日々研鑽を積み、将来多くの外国人住民が沖縄で安心して医療サービスを受けられるよう、言葉と文化の壁を越える支援を行っていくことが私の今後の目標です。

これから医療通訳者養成講座を受講される皆さん。全力で挑み、全力で楽しんでください！

英語

## 「医療通訳養成講座を受講して」 玉那覇 晶子



医療通訳も徐々に認識されつつありますが、まだまだ医療通訳とは何かと思う方も多いと思います。

本講座を知ったきっかけは、友人が「こういう講座あるけど受ける？」と声をかけてくれたことでした。それまではこのような養成講座があることすら恥ずかしながら知りませんでした。友人は以前少しの間ですが私自身が医療通訳者として従事していたことを知っていたのでたまたま声をかけてくれたのです。

医療通訳者として従事していた時、本当に様々な外国人患者さんが受診に来院しました。米軍関係の方、技能実習生、仕事で沖縄に住まれている方、日本人と結婚され沖縄に在住されている方などです。言葉が通じないということで、近くの病院へ行ったら断られた、という方もいらっしゃいました。

みなさん受診に来た時は不安と緊張で落ち着かない様子でし

た。言葉が通じてさえも病院に行くこと自体不安なこと。もし私も全く言葉もわからない国で病院にかかることになったら不安を通り越してむしろ怖いと感じると思います。

来院された外国人患者さんが受診等を終え、帰る頃には緊張も解けて、時には笑顔で「本当にありがとう、とても助かった」との言葉には、一個人として「無事に受診できてよかった」と毎回感じました。私自身が現場を離れた後でも、医療通訳は何らかの形では関わっていたという気持ちは持っていましたので、本講座を受講できるとわかった時は嬉しい気持ちでいっぱいでした。

本講座では医療だけではなく、通訳理論、通訳者としてのあり方などに加え、日本の社会保険制度など多岐に渡って知識を得ることができました。

講座は主にロールプレイ形式で、グループに分かれてドクター役、患者役、通訳者として検査の説明(CT、MRI、内視鏡検査など)や診療科(内科、呼吸器科、整形外科、精神科、産婦人科、小児科、皮膚科)を行いました。全5回の講座という短い間ではありましたが、職種も様々な方々と知り合いになれ、お互いに刺激しあい、最後の講座の時はみんなに会えるのも終わりと思うと寂しく

なるほど密な時間を共に過ごしました。

全5回の講座なので、筆記試験に向けて仕事をする傍ら、講座で学んだことにベースに関連する社会保険制度のリサーチや、医療用語、病名、症状などの勉強というハードなスケジュールではありましたが、様々な知識を得るいい機会になりました。2次試験ではロールプレイで学んだことを、実際の受診のような設定で行わ

れました。これまで勉強したことをベースに、様々な場面にも対応できるよう日々スキルを磨いていこうと思います。

今後、観光客も含め、日本に住む外国人の人数はさらに増えていき、医療通訳のニーズは増えていくと思います。自分がもし外国人患者の立場だったらという気持ちを持って、相手の気持ちにも寄り添える医療通訳者として貢献していけたらと思います。

## 英語

### 「医療通訳講座を受講して」

ワイルダー 千秋



今回、OIHFの医療通訳講座を受講させて頂き、沖縄県に滞在中の外国人の方々が、特に言語や制度の面で苦労されている事に改めて憂念し、医療現場のみならず多方面での通訳の必要性を感じました。私自身も外国での出産経験があり、言葉も文化も全く違う土地での初めての子育てに、何度も涙を流した事がありましたが、数少ない同郷の方とのたわいない会話に救われ、言葉、人対人のコミュニケーションがどれほど人の心を潤すかを改めて感じ、やはりこの講座を受け、通訳業務のお手伝いができればと思い、講座へ応募しました。

講座内容は、全5回、ロールプレイを含めた座学があり、初日に受ける日本の医療制度は、厚労省のサイトにありますテキストや、受講の際にスライドを通してわかりやすく教えていただけます。2回目からは、在沖海軍病院にて勤務中の通訳の方にご指導いただきました。日々、医療通訳として活躍されているので、現場の事がよくわかり、通訳する際のコツや内容を凝縮し訳出する方法などが学べたため、大変勉強になりました。

講座最終日から2週目に認定テストの1次試験が実施され、内容は座学で学んだ制度や通訳倫理などの問題と医療知識の問題がありました。後者はすべて英文で出題されており、内容的に幅広く、例えば、特に受診率が多いであろう病気の病名や症

状などが出題されていました。ただ、じっくり内容を読んで答えるには時間的に厳しく、あっという間に終了になってしまうため、症状と病名を組み合わせる箇所は速読で全文を読むというよりも、始まりの文章を少し読み、答えにならなそうな症状をどんどん除外していく方が早めに答えらそうだと思います。

2次試験は面接で15分間、ロールプレイで練習させてもらった箇所が出題されました。テキストは厚労省のサイトにあり、どなたでも閲覧可能です。受講中は、個人的にはテキスト(シナリオ)を読んだ限りでは訳出に困らないだろうと軽く考えた事もありましたが、ロールプレイ実践ではまったく言葉ができませんでした。普段の普通の会話には出てこないワードが、分かっていた様で英語では?という場面が少なからずあったため、オノマトペの訳出など事前に学習、復習される事もお勧めします。医者と患者の間に入る設定のため、内容はシナリオ通りですが、こちらも症状などをおさえればさらに早く訳出が可能になると思います。

医療通訳講座の受講をお考えであれば、ウェブ上から診療料が多い大病院をご覧になり、一診療科ずつ、受診内容の上位であろう5~10程の病気を挙げ、その病名、症状を一読することをお勧めします。地道な作業ではありますが、健康に関する知識が増える事は後々、ご自身、ご家族へのベネフィットになるかと思えます。

今後、メディカルツーリズムが沖縄でも普及していくと予想されており、多数の病院などでの人材確保が見込まれると思います。その目的で今後来沖される外国人の方や、言葉のせいで病院へ行けず困っている在沖外国人の方の言葉の橋渡し役として、医療通訳者を目指してみませんか。

## 中国語

### 「医療通訳者養成講座を受講して」

喜瀬 沙織



私がこの医療通訳養成講座を受講しようと思ったきっかけは、学生の頃に留学生のチューターをしており、行政の受付や病院に付き添った際に、中国語での橋渡しが上手く出来なかった苦い経験があったからです。通訳経験も医療の知識も全く無かったので、受講するかどうかギリギリまで悩みましたが、自分自身の勉強になるだろうし、いざという時に少しでも外国人の役に立てるようになりたいという思いで受講を決心しました。

講座内容は、日本の社会保障制度、病院の種類やワクチン、薬や検査、通訳倫理や技術、中国と日本の医療制度の違いなど多岐にわたり、受講生同士で話し合ったり、検査・問診のロールプレイングをするなど、非常に勉強になるものでした。講座内の時間だけで知識を習得することは不可能なので、自分で単語を調べ、資料を読み込み、中国語の問診票や関連サイトを調べたりする必要がありました。仕事をしながら自分で学習を進めるのはかなり大変でしたが、新しい分野の知識を吸収する事は楽しく、普段の

生活の中でも、言葉や医療に対する意識がものすごく高まりました。

また、受講生の中には、中国人の方や通訳経験者、留学経験者など、実にさまざまな方がおり、そのような方々と交流し、意見を交わしたことも大変貴重な経験となりました。初めは緊張したり、出来ないことを恥ずかしく思ったりもしましたが、一緒に勉強する仲間がいるということは心強く、毎回の講座も楽しみになっていました。

実際の認定テストでは、病気の症状や器官機能、在留資格や医療・社会制度関係の細かい部分も出題され、非常に苦労しました。2次試験はロールプレイング形式で行いましたが、受け答えは緊張してしまい、ノートテイキングや通訳に時間がかかりすぎてしまいました。それでも何とか認定を頂くことができましたが、講座や認定試験を通して改めて自分自身の語学力の不足や医療・社会制度に関する知識不足を痛感しました。

講座を受講しただけで満足するのではなく、今後も学習や経験を積み重ね、ちゃんと実践において、利用して下さる方が安心し、信頼できるような医療通訳者になることを目指していきたいと思っています。



英語

## 「仲間と出会えた医療通訳講座」 名護 麻美

こんにちは。今これを手にとって読んでいらっしゃる方は、日本国内で日本語メインで生活していらっしゃる方がほとんどかと思えます。海外にでも行かない限り、医療通訳に触れる機会はあまりないのではないでしょうか。海外で誰かが自分の言葉を理解し、一語一句正確に訳して医者との会話を取り持ってくれればどんなに心強いです。医療通訳者は外国人患者と医療従事者の間に立ち、患者側に立ちあがる言葉やこころ、制度の壁を取り払い、スムーズな受診・治療につなげる役割を果たします。

私が医療通訳に関心を持ったきっかけは、国際青年交流事業で急病の外国人参加青年の受診に付き添った経験からです。コロナ感染症に係る水際対策が緩和された直後で、土地勘のない四国地方に行き、急に発熱した外国人患者を受け入れる発熱外来を探すのは困難なことでした。さらに困ったのは、鼻の奥から検体を取る検査に強い拒否反応を示す外国人に対し、パニックに陥らないよう説得して検査を受けてもらわないといけないことでした。聞くと、国では鼻の奥に細く長い棒を突っ込む検査は、痛みを伴うだけでなく患者に不必要なショックを与え、負担が大きいため実施しないことになっているそうです。せっかく受診しても検査をしないでホテルに帰るというのですがそうもいかず、病院でその参加青年に付き添い、私の子供が同じ検査をした時の話などをしながら落ち着かせ、医者にも患者の不安を伝

え、無事に検査を終えて帰ってこれることができました。外国人の患者に寄り添い、不安を和らげてあげられる医療通訳にやりがいを感じた瞬間です。

そんなことで、講座も何とかなるだろうという軽い気持ちで申し込みましたが、受講者の英語力レベルの高さと認定試験の合格率は高くないという話から、講座期間中は緊張しました。周りは仕事や勉強の傍ら毎週末講座に通い、熱心に取り組む方ばかり。そのような仲間と一緒に模擬演習に取り組んだことは、大変でしたが充実した経験でした。

一次の筆記試験では、英語で医学知識を問う質問が特に難しく感じました。一次試験合格後は、グループで通訳実技試験に向けて練習し、訳のニュアンスや自分の癖を指摘してもらい、長い会話で抜けている訳語がないかなどを確認しました。台風時に仲間とオンラインで練習中に急に停電になり、暗い部屋でコンピュータ画面の明かりの前で実践練習を続けたことは良い思い出です。また夜子供を寝かしつけた後に、YOUTUBEを見ながら疾病名の英単語リストを作り、診療会話を英語に訳しながら、ぶつぶつ独り言を言って自主トレに励んだ日もありました。

講座を通して、一緒に頑張る仲間がいたことが自分自身のモチベーションや緊張感の維持につながったと感じています。通訳なんて無理、と思った時は、講座の先生がおっしゃった、プラス(できること)を増やしていけばいい、という言葉思い出し前向きになれました。医療や健康に関心があり、学び続けることが好きな人に向いている講座だと思います。私自身、まだスタート地点に立ったばかりなので、日々研鑽に励み、医療通訳を通して人の役に立つことができればと思っています。

## OIHFでは在住外国人の生活・労働環境の向上に 責任を持つ企業を認証しています！

OIHFでは、在住外国人の生活及び雇用に責任を持つ企業を認証するプラットフォーム(多文化共生推進アライアンス)を運営しています。今回認証した企業を紹介します。

### 【アディッシュプラス株式会社】

ITマーケティングを手掛ける同社は、沖縄だけではなく本州や九州でも事業を展開しており、外国人の雇用を積極的に行っています。同社の特徴の一つとして、国籍に関係なくモノリンガル対応の社員の賃金と比べて多言語対応できる社員の賃金が高いというのが挙げられます。往々にして、国内の企業では年功序列の賃金体系を敷いているところが多くバイリンガルスキルが正当に評価されにくい風潮がありますが、今後は同社のように語学スキルも他の資格と同様に評価し賃金に反映する会社が主流になるでしょう。

### 【アイペックスグローバルオペレーションズ株式会社】

I-PEX株式会社は1963年に設立され、1971年にシンガポールへ進出したのを皮切りに、日本国内はもとより、米国や中国、マレーシア、インドネシア、フィリピン、タイなど世界各地に工場や事務所があるグローバル企業です。

そのようなグローバル企業が2019年に沖縄に進出し、このたびOIHFが運営する多文化共生推進アライアンスの趣旨に賛同し加盟することとなりました。

今後はともに在住外国人の労働・生活環境の向上と地域住民としての受入れ環境を整備し、豊かで持続可能な多文化共生社会の実現を目指して、従業員向け文書の多言語化などをOIHFがお手伝いすることがありそうです。

OIHFでは、引き続き在住外国人の生活と労働環境の向上に責任を持つ企業を認証して参ります。本プロジェクトに興味・関心を持つ企業関係者の皆様はOIHFまでご連絡ください。事業概要は、こちらのHPをご覧ください。

<https://kokusai.oihf.or.jp/corporate/>  
認証企業のロゴをOIHFの専用HPに掲載いたします。



# イベント情報

多くの皆様のご参加をお待ちしております

## 「災害時外国人支援スキルアップセミナー」参加者募集

**10/29 SUN**  
**災害時外国人支援スキルアップセミナー**  
 受講料 無料  
 募集定員 40名程度  
**11月11日(土)**  
 8:45~13:00  
 会場 日本赤十字社 沖縄県支部 (那覇市瑞穂1丁目9-1)

**実施日時**  
 2023年11月11日(土)  
 8:45~13:00

**場所**  
 日本赤十字社沖縄県支部  
 (那覇市与儀1丁目3-1)

**応募締切**  
 2023年10月29日(日)

**定員** 40名

**参加費**  
 受講無料

**応募方法**  
 参加要件をご確認いただき、オンラインフォームから申請して下さい。

## 「外国人支援スキルアップセミナー」参加者募集

**OIHFF外国人支援スキルアップセミナー**  
 講師 法テラス本部国際室長・弁護士 富田 さとこ 氏  
 地域国際化推進アドバイザー 村松 紀子 氏  
 実施日時 2023年10月14日(土) 9:00~12:30  
 会場 沖縄県市町村自治会館 (那覇市旭町116-37)

**実施日時**  
 2023年10月14日(土)  
 9:00~12:30

**場所**  
 沖縄県市町村自治会館  
 (那覇市旭町116-37)

**応募締切**  
 2023年9月24日(日)

**定員** 30名

**参加費** 受講無料

**応募方法**  
 オンラインフォームから申請して下さい。募集定員に達し次第、締め切ります。

## 2023年度 第2回 日本語学習サポーター育成ウェビナー参加者募集

**第2回 日本語学習サポーター育成ウェビナー**  
 「地域日本語教育の実践について」  
 参加者募集  
 目的 今後地域において外国人の日本語学習に貢献する「日本語学習サポーター」を育成することで、日本語学習の支援体制の構築を目指します。  
 実施日時 10月7日(土)9:30~11:30(ZOOM)  
 申込方法 OIHF HP (https://kokusai.oihf.or.jp) またはQRコードから行うことができます。

**実施日時**  
 2023年10月7日(土)  
 9:30~11:30

**場所**  
 Zoom

**応募締切**  
 2023年9月29日(金)

**参加費**  
 受講無料

**応募方法**  
 申し込みフォームからお申込みください。

## 新たな多文化共生の地域づくりセミナー参加者募集

**新たな多文化共生の地域づくりセミナー** 参加無料  
**目的** 本セミナーでは、多文化共生に関する基本的な知識や地域の外国人住民の現状等を概観するとともに、実際に日本で子育てに奮闘する在住外国人の実体験を通して、外国人住民も暮らしやすい地域づくりについて共に考える機会を持ちます。  
**講師** 時光(ときひかる) 氏  
**対象者** ■住民サービスや国際交流施策等に携わる県内自治体職員 ■外国人を受け入れている県内企業や学校関係者 ■その他、趣旨に賛同する県内在住者  
**実施日** 2023年11月18日(土)  
**時間** 9:00~12:00  
**場所** P's SQUARE (浦添市西原2-4-1) HP QR  
**申請方法** ■詳細はHP (https://kokusai.oihf.or.jp) で確認! ■応募先着順とし、定員に達し次第、募集を締めます。

**実施日時**  
 2023年11月18日(土)  
 9:00~12:00

**場所**  
 P's SQUARE  
 (浦添市西原2-4-1)

**応募締切**  
 2023年10月29日(日)

**定員** 30名程度

**参加費** 受講無料

**応募方法**  
 オンラインフォームからお申込み下さい。

## 「リーガル・ライフサポーター養成講座」参加者募集

**リーガルライフサポーター養成講座 2023**  
 受講料 無料  
**Schedule**  
 開催期間 9月13日(金)~11月18日(土)  
 申込期間 申込 12月9日(土) 9:00~12:30 申込 12月11日(月) 9:00~12:30  
 会場 P's SQUARE (浦添市西原2-4-1)  
 12月31日 11:16(Sun) 10:00~11:00 P's SQUARE  
 2023年 12月23日(日) 12:30(Sun) 10:00~11:00 OIHF

**実施日時**  
 詳しい日程についてホームページでご確認ください。

**場所**  
 P's SQUARE  
 (浦添市西原2-4-1)

**応募締切**  
 2023年11月5日(日)

**参加費** 受講無料

**応募方法**  
 参加要件をご確認いただき、11月5日(日)までにお申し込み下さい。